

～自社栽培植物の残渣有効利用より、ワイン醸造を通じた地域貢献へ～

アルビオン白神研究所抽出研究棟・ALBION Shirakami Vineyard & Wineryの プレス発表会を開催

株式会社アルビオン(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林 章一)は、6月1日、来賓の猿田 和三秋田県副知事をはじめとする関係者の方々をお招きし、アルビオン白神研究所 抽出研究棟・ALBION Shirakami Vineyard & Winery(所在地:秋田県藤里町)のプレス発表会を行いました。
また、当日は同時にこのワイナリーで醸造した藤里町企画の「白神山地ワイン」が発売となりました。



左から
当社代表取締役社長 小林章一
秋田県副知事 猿田 和三様
藤里町長 佐々木 文明様



白神山地ワイン

■アルビオンの植物研究とブドウ栽培

アルビオンは、2010年に世界自然遺産の白神山地の麓、秋田県藤里町の協力を得て研究所とパイロットファームを設立しました。2012年には、藤里町からヤマ・ソービニオン(ヤマブドウとカベルネ・ソーヴィニヨンの交配種)の購入を開始し、ブドウ由来の化粧品原料の検討を始めました。

2015年より、ブドウ栽培と化粧品原料開発について藤里町へ相談を始め、2018年から高齢のため廃業したブドウ農家様よりブドウの木を譲り受け、化粧品原料の研究のためにブドウを栽培。2021年には、同研究所の一施設として、自社栽培した植物エキスの製造、抽出技術研究、発酵技術研究を行う「アルビオン白神研究所 抽出研究棟・ALBION Shirakami Vineyard & Winery」を開設しました。栽培技術研究をはじめ、世界初アルビオンオリジナルの垂臨界ジメチルエーテル抽出を含む種々の抽出研究を行い、種や果皮、果梗(かこう)^{※1}からのエキス抽出や、残渣となる果汁からワインを造り、醸造過程で行う発酵技術研究などを行っています。

抽出の研究が可能になったことにより、植物栽培から製品配合まで一貫した研究が可能になり、更なる独自性と効果効果を最大限に発揮することができると考えています。また、ワイン醸造技術から発展した発酵研究により、新規性の高い原料開発も可能と考えています。

※1ブドウのヘタや柄の部分でタンニンと呼ばれるポリフェノールを含みます。

■藤里町の特産物「白神山地ワイン」

藤里町では、1990年頃からブドウ栽培が行われ、「白神山地ワイン」は藤里町の特産物であるワイン原料用ブドウを山形県の醸造所へ持ち込み、製造されていました。しかし、ワインの表示基準の変更^{※2}により、従来通り「白神山地ワイン」とラベル表示できなくなったため、2018年を最後に生産の中断を余儀なくされていました。

ワインの名称変更は、商品のブランドイメージに直結することから、藤里町の「白神山地ワイン」を復活させるために原料の栽培からワイン醸造までの全てを町で行う新しい「白神山地ワイン」を作り出し、改めて特産品としてPRしていくとともに、地域活性化にもつなげていきたいという想いが、このたびのリニューアル企画となりました。

※2消費者がワインの原料や産地などの情報を正しく知り、適切な商品を選べるようにするため、2015年10月、日本初の公的なワインの表示に関する基準「果実酒等の製法品質表示基準」が定められ、2018年10月30日より本格的にスタートしました。その中で、地名をラベルや容器に表示する条件においては、その地域のブドウを85%以上使用し、かつ、醸造地がそのブドウの産地内にある場合と定められています。

■地方創生～アルビオンと藤里町とのつながり～

アルビオンは、2016年から自社でのブドウ研究、2018年からブドウ栽培をスタートし、現在では、研究所周辺の22,763㎡の土地でブドウを栽培しています。ブドウの品種もヤマ・ソービニオンに加え、シャルドネ、ピノ・ノワールへと広げ、合計3種の研究を行っています。

この度、藤里町が企画した「白神山地ワイン」の醸造委託をいただき、4年ぶりに「白神山地ワイン」が復活し、6月1日より発売することになりました。

アルビオンは、研究施設開設から今日までの藤里町とのつながりを大切に、そして、一度は途絶えてしまった「白神山地ワイン」の復活に協力させていただくことで藤里町の皆様に貢献できることを大きな喜びとし、これからも地域に根差した企業活動を推進してまいります。

〈当社代表取締役社長 小林 章一 挨拶〉

本日、抽出研究棟そしてALBION Shirakami Vineyard & Wineryをお披露目できることを、私自身大変嬉しく思っております。この施設を建設するにあたり、藤里町からは土地をご提供いただきました。この抽出研究棟は、世界初となるアルビオンオリジナルの亜臨界ジメチルエーテル抽出をはじめ、アルコール抽出など他の一般的な抽出もできる施設となっております。アルビオンはこの施設でヤマ・ソービニオンの種子や組織などから化粧品原料の抽出を行い、果汁からはワインを醸造させていただこうと思っております。藤里町から、本日発売となる「白神山地ワイン」の醸造委託をいただいたことは、地域貢献を目指す私共アルビオンとして、とても大きな喜びであります。また今後はワインの発酵技術からヒントを得ながら、発酵を活かした化粧品原料の研究も進めていきたいと考えております。

私共アルビオンはこれからも藤里町の皆様に、より貢献できるようお約束申し上げます。

〈秋田県副知事 猿田 和三様 ご挨拶〉

このたびは、白神研究所の抽出研究所、ワイナリー、そして「白神山地ワイン」の発表会、誠にありがとうございます。

藤里町のブドウの栽培、そして醸造にかける想いに、アルビオン様からご協力をいただけたということは、我々にとってもとてもありがたいことでございます。

白神山地の自然のままの姿を大事にしながら、もっと白神山地の魅力を広めていくというのが秋田県、藤里町の課題でございます。白神山地の特性を活かした地元産のワインを、また化粧品を世界に広めていくことに関しまして、県として最大の協力をしていきたいと思っております。

■資料

2021年6月22日発行リリース

[～化粧品原料の新たな可能性を追求～アルビオンが自社研究所に抽出研究棟を新設](#)

【株式会社アルビオン 概要】

株式会社アルビオン

所在地：東京都中央区京橋1-12-2

創業：1956(昭和31)年3月2日

資本金：7億6,098万円

代表：代表取締役社長 小林 章一

従業員数：3623名(2022年1月末日現在)